

つちもと のりあき 人間 土本典昭の仕事展

やっぱりオレは 人間が好きなんだなあ

趣旨

土本典昭という1人の人間がいた。生涯に50本を越える記録映画づくりに携わり、2008年6月24日、79歳の生涯を閉じた。この世からいなくなったけど、私たちの記憶からはなくなるらない。今も、記録映画を通して、事実を今に届けている。映像を通した、土本典昭のまなざしである。

土本典昭は、なぜ、記録したのだろうか、そこに観えてくることは何だろうか。

「撮ったことより、やれなかったことが多かった」と、記録映画作家の土本典昭は言うのだった。やったことよりやれなかったことが多かったというのである。

やりたいことを持ち続けた土本典昭がいた。やりたいことを終生持ち続けた土本典昭、自らの「創る」ことに正直であり、変わらぬ思いを持ち、努力し続けた土本典昭、先の大戦という時代をゆりかごに育ち、敗戦で大人たちがそれまで持っていた価値を簡単に換えるのをみた。親父を含めて一切大人を信用しないと決めるに至った青春時代、そこには事実の記録に捧げた土本典昭の始まりがありはしないか。

「私のやりたいことはこれだ」と衝撃を受けた記録映画がある。記録なくして事実なし。記録映画作家の土本典昭の一生は、その意味で信用できる自分との闘いであつたのかもしれない。

土本典昭という人間がいた。記録に生涯をささげた一生であつた。

土本典昭の仕事を紹介したい。そこにある土本典昭の思いを今に伝えたい。

土本典昭という男がいた。水俣病事件に出合った。撮影した。記憶を記録にするために撮ったのだった。「記録なくして事実なし、人は歴史からどう学ぶのか。人は絶望だけでは生きていけない、でも水俣は違った。不知火海は蘇る、そうでなければ、そこで生まれるしかなかった住民には救いがない。」そう思っていた。

土本スタッフがいる。仲間がいる。高木隆太郎、小池征人、大津幸四郎、一之瀬正史、西山正啓、掘傑たち、そして連れ添った基子……。土本と志を同じくする者たちだった。

時が過ぎ、今も水俣病受難者たちは救われずにいる中、戦友だった水俣病患者の闘志川本輝夫が志半ばで亡くなった。撮りたいと準備していたのに撮れなかった。記録したことと記録できなかったことがある。記録したものだけが映画になった。でも、記録できなかったほうが多いのだった。

亡くなる前の闘病のとき、基子さんは娘の亜理子さんと相談し、知り合いのホスピス病院に託した。看病した。ガンだったらオレに必ず言ってくれと言っていた土本さんに亜理子さんは肺ガンだと告知した。

記憶を記録することにこだわった人生だった。やりたいことがあり、やれないことに向き合った人生だった。でも言うのだった。「やっぱりオレは人間が好きなんだなあ」と。

残ったものがある。土本監督の撮影した記録映像である。

永遠に残る記録とともに土本の志は語り継がれていく。

2009年6月

土本典昭の仕事展・実行委員会

人間 土本典昭の仕事展

No.	タイトル
1	趣旨
2～10	土本典昭の略歴
敗戦激動の青年時代	
11	大人は一切信用しなくなった
水俣病に向き合い記録へ 私は水俣病によって映画とは何かを学んでいる	
12	やっと撮れるかな
13	『不知火海』で甦りをえがけたか
14	石川さゆりショーの成功は胎児性水俣病患者のあり様をつよく印象づけその後の運動をのびやかにした
15	丸木俊・位里夫妻は 絵描きとして水俣の「甦り」を描きたいが むずかしい……
16	みなまた日記 甦る魂を訪ねて
17	みなまた日記は 甦りを見つめようとしていた
土本典昭の記録映画の作法	
18	スタッフと共有する
19	テーマを決めてからというのは私たちの映画作法の視野にはない 現実はより自由であり より豊饒であり複雑である
20	1972年 スtockホルム 国連人間環境会議水俣病記録映画に対するヨーロッパの反応
21	私は 水俣病によって 映画とは何かを 学んでいる
22	たとえば坂本しのぶちゃんに学ぶ
23	信頼という距離
不知火海巡海上映 記録あつて普及なしを超えて	
24	わが映画発見の旅典型的な水俣病かくし 森一族の場合(竜岳町旧大道村の網元)
25	わが映画発見の旅 「知は力なり」
26	わが映画発見の旅 不知火海巡海上映の終わりに
27	漁業者の生活の未知の部分を知り、人生観をききつくさなければ、私は歴史的なスケールで見る地点にたてないであろう
28	「僕は一度も絶望していない」ゆふいん文化・記録映画祭で
西山正啓監督の語る土本典昭	
29	土本さんはすごい人だった
30	一九八〇年 至福の時を過ごした 水俣の図物語の撮影
31	胎児性患者たちの石川さゆりショー現場で人との信頼関係づくりを教えてもらった
32	僕は土本さんを作品だけで語りたくない
33	土本さんは 最後まで 不知火海との 立派なかかわりを見せてくれた
一之瀬正史と土本典昭	
34	一九六八年に土本典昭監督と出会った土本さんは当時四十才だった
35	一九七七年は不知火海に面した町での 巡海映画上映一色だった
36	土本さんは ヒエラルキーをつくらない人だった
37	東京で育ち ふるさとを持たない自分は不知火海がふるさとだ
38	「土本さんはとてもお茶目な人だった」と石牟礼道子さん